

2013年2月27日
株式会社日立製作所

エンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」のエントリーサーバに 最新の POWER7+™ プロセッサ搭載モデルを追加し、販売開始



「EP8000 740」、「EP8000 720」

株式会社日立製作所(執行役社長:中西 宏明/以下、日立)は、このたび、高性能・高信頼なシステム向けの UNIX サーバであるエンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」のエントリーサーバにおいて、最新の POWER7+™ プロセッサを搭載し、従来モデル比*1で最大約 1.2 倍のトランザクション処理性能*2を実現するとともに、仮想サーバ数を従来モデル比で 2 倍にするといった仮想化機能の強化を行った新モデルを 3 月 1 日から販売開始します。「EP8000 シリーズ」では、2012 年 12 月に、ハイエンドサーバ、ミッドレンジサーバにおいて、POWER7+™ プロセッサを搭載し、仮想化機能を強化した新モデルを製品化しており、今回、エントリーサーバにおいても新モデルを製品化したことで、より高性能な製品を広範囲のお客様に提供可能となりました。

*1 「EP8000 740」および「EP8000 720」における、2012 年 4 月に販売開始した POWER7®プロセッサ搭載の従来モデルと、POWER7+™プロセッサ搭載の新モデルの比較。

*2 トランザクション処理性能:関連する複数の処理を一つの処理単位にまとめて管理する処理方式であるトランザクション処理の性能のことで、プロセッサ性能だけでなく、システム全体の性能を評価するための指標。

「EP8000 シリーズ」は、メインフレームクラスの信頼性と可用性を備え、オペレーティングシステムに最新の AIX® V7.1 をサポートした UNIX サーバで、金融機関や製造業をはじめとする企業の基幹業務システムや、電力、交通などの社会インフラシステムにおいて、多くの実績があります。

日立は、今回、「EP8000 シリーズ」のエントリーサーバ「EP8000 740」および「EP8000 720」において、最新の POWER7+™プロセッサを搭載し、従来モデル比*1で最大約 1.2 倍のトランザクション処理性能を実現しました。また、プロセッサ 1 コアあたりの仮想サーバ数を従来製品比*1で 2 倍となる 20LPAR*3 に拡大するとともに、メモリ上のデータを圧縮することで、搭載している物理的なメモリ容量以上に利用可能な容量を拡張できるメモリ仮想化機能「Active Memory Expansion」をサポートするなど、「EP8000 シリーズ」の特長である仮想化機能を強化しました。

*3 LPAR(Logical PARTitioning/Logical PARTition):ハードウェア(サーバなど)がもつリソース(プロセッサ、メモリなど)を論理的に複数の区画に分割して割り当てる方式(Logical PARTitioning)、または、その割り当てられた区画(Logical PARTition)。

日立は、今後も、独自の高速系切替機能*4 や日立のストレージシステムとの連携機能などにより、高信頼なシステム構築を実現するとともに、統合システム運用管理「JP1」をはじめとする日立オープンミドルウェアとの連携や、AIX®予防保守パッチ提供サービスなどの高信頼なサポートサービス「日立サポート 360」の提供により、企業の基幹業務や社会インフラの安定稼働を支援していきます。

*4 高速系切替機能: サーバに障害が発生した場合に、現用系から待機系のサーバへの切り替えを迅速に実現する機能。

■新製品の特長

1. POWER7+™プロセッサ搭載により、従来モデル比*1で最大約 1.2 倍の処理性能を実現

「EP8000 シリーズ」のエントリーサーバとして初めて、POWER7+™プロセッサ搭載モデルを製品化しました。具体的には、POWER7+™(4.2GHz、3.6GHz)を最大 16way*5 まで搭載可能な「EP8000 740」と、POWER7+™(3.6GHz)を最大 6way まで搭載可能な「EP8000 720」の新モデルを追加しました。POWER7+™プロセッサは、従来の POWER7®プロセッサに比べ、周波数の向上や、プロセッサ内蔵のオンチップ L3 キャッシュメモリの容量拡大などにより、処理性能の向上を実現しています。これにより、「EP8000 740」、「EP8000 720」は、POWER7®プロセッサを搭載した従来モデル比*1で、トランザクション処理性能をそれぞれ最大約 1.2 倍に向上しています。また、メモリは最大 1,024GB、PCI スロット*6は最大 44 本と、エントリーサーバとして優れた拡張性を有しており、小規模なデータベースやオンライントランザクション処理システムなどの基幹業務システムにおいて、さらなる性能と拡張性の向上を実現しています。

*5 way: プロセッサのコア数。

*6 PCI(Peripheral Component Interconnect)スロット: コンピュータ内のデータ伝送路である PCI カードを搭載する差し込み口。

2. 仮想化機能の強化

「EP8000 シリーズ」の特長である、プロセッサやメモリなどのリソースのきめ細かな分割を実現する仮想化機能「マイクロパーティショニング」において、プロセッサ 1 コアあたりの仮想サーバ数を従来モデル比*1で 2 倍となる 20LPAR に拡大しました。これによって、「EP8000 740」では最大 320LPAR、「EP8000 720」では最大 120LPAR の仮想サーバの構築が可能になります。

また、2012 年 12 月に製品化したハイエンドサーバ、ミッドレンジサーバの新モデルに続き、エントリーサーバにおいても、メモリ上のデータを圧縮することで、搭載している物理的なメモリ容量以上に利用可能な容量を拡張できるメモリ仮想化機能「Active Memory Expansion」と、プロセッサとメモリの連携度を監視して、最適なパフォーマンスを得られるように仮想サーバのメモリ配置を自動調整する機能「Dynamic Platform Optimizer」をサポートしました。

これらの仮想化機能を駆使することで、エントリーサーバにおいても、より多くのサーバを集約・統合することが可能となりました。

■新製品の概要

モデル	形状	プロセッサ (周波数)	最大プロセッサ数 (way)	メモリ容量
EP8000 740	ラックマウント	POWER7+™(4.2,3.6GHz)	16	32~1,024GB
EP8000 720	ラックマウント/タワー	POWER7+™(3.6GHz)	6	8~512GB

■新製品の価格と出荷時期

モデル	価格	出荷時期
EP8000 740	8,075,340 円～(税抜 7,690,800 円～)	2013 年 4 月 26 日
EP8000 720	2,438,205 円～(税抜 2,322,100 円～)	

■他社商標注記

- ・AIX、POWER7、POWER7+は米国およびその他の国における International Business Machines Corporation の登録商標または商標です。
- ・UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。
- ・その他、記載の会社名、製品名はそれぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■エンタープライズサーバ「EP8000 シリーズ」に関するホームページ

<http://www.hitachi.co.jp/EP8000/>

■製品に関するお問い合わせ先

HCA センター

電話:0120-2580-12(利用時間 9:00～12:00、13:00～17:00(土・日・祝日を除く))

以上

このニュースリリース記載の情報(製品価格、製品仕様、サービスの内容、発売日、お問い合わせ先、URL 等)は、発表日現在の情報です。予告なしに変更され、検索日と情報が異なる可能性もありますので、あらかじめご了承ください。
